

三重大学広報誌
三重大X
[えっくす]

CONTENTS

〈ホットNews〉
藤堂高虎400年
三重大学188年
01...04

〈特集〉
社会連携
05...10

〈プロジェクト〉
part3 **この春から看護師**
11・12

〈特集〉
学ぶ・育む
プログラム「X」
13・14

〈特集〉
写真にみる三重大学
15・16

気になるNews
17・18

スポット／クラブ・サークル
19・20

紀行／表彰・本の紹介
21・22

お知らせ
23...25

歴史街道シリーズ
26

ホットNewsは
藤堂高虎400年
三重大学188年
地域に根ざして



vol.15
2008 AUTUMN

藤堂高虎 188年 400年 三重大学



入徳門・藩校 有造館の正門
(津市お城公園内)

2008年 藤堂高虎が津に入府して400年



藤堂高虎像(四天王寺蔵)

慶長13年(1608)、高虎は、徳川家康の厚い信頼のもと、伊予今治(愛媛県今治市)から伊賀一国・中部伊勢へ転封。本城津城と支城上野城の城主として藩政を始めました。以後、藤堂藩は32万石の大藩として、12代の藩主を経て明治を迎えます。

藤堂藩と三重大学の関係

～高虎から始まる藤堂藩は、
学問の盛んな藩～

歴史の続きは
P15～16を
見てね



「総合大学」有造館の誕生

有造館は、藤堂藩十代藩主 藤堂高兎が文政3年(1820)に設立した藩校
有造館は、全国的に著名な学者である猪飼敬所や齋藤拙堂などを擁し、学問水準の高い藩校として知られていた。文武両道を重視し、天文・算術・医術(蘭方も含む)などの理系教育も充実しており、東海地域における最先端の教育体制が完備されていた。
たとえば、『資治通鑑』(司馬光が編纂した中国の代表的歴史書、諸藩の教科書になる)を日本で初めて版行したり、全国に先駆けて種痘をおこなったりしたことが特筆されます。

有造館 有名教授陣

- 津坂東陽(漢学・医学)
- 猪飼敬所(儒学)
- 齋藤拙堂(漢学・蘭学)
- 上野彦馬(蘭学・化学・写真家)

有造館



師範有造学校から三重大学教育学部まで

明治維新後、藩校である有造館の施設を利用して師範有造学校が開校された。後に三重師範学校となり、昭和24年には三重大学学芸学部、昭和41年には教育学部に改組され現在に至っている。有造館が津城内に置かれた関係から(現NTT津周辺)、教育学部は上浜キャンパスに移転するまでは旧城内の丸ノ内キャンパスにあった。

● 津藤堂藩藩校「有造館」の「有造」の由来について
孔子が編集したとされる『詩経』の大雅文王(篇名)に下記の詩があります。

ゆえに(肆)成人は徳あり、小子もなす(造)あり

思齊「肆成人有徳 小子有造」(傳)造 為也。
「周の文王は徳に優れた方であったから、その配下の大夫・士は有徳の人々であり、それらの子弟たちも、徳を成就することになる。」という訳解になります。

えっ!!
三重大学は、
1820年から続いて
いるんだ



有造館は、
優れた藩主の下で、
藩士の子弟達が有徳者となる
ために学問修養する場
という意味だね

▼博物館明治村



今も残る三重師範学校校舎

師範有造学校が手狭となり、明治11年(1878)、津城内の西堀端に新校舎が建設された。当時は、三重県を代表する洋風建築として県庁舎とともに有名だった。現在は両建物ともに明治村で公開されている。

藤堂高虎

～藤堂藩のいしずえ～



三重大学教育学部・教授
藤田 達生 Fujita, Tatsuo

【URL】藤田研究室 <http://www.cc.mie-u.ac.jp/~le21101/>
織豊期研究会 <http://133.67.82.117/frame.html>
伊勢中世史研究会 <http://mietyusei.hp.infoseek.co.jp/index.htm>

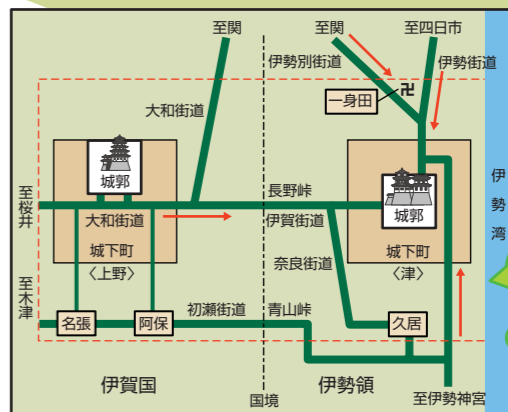
藤堂高虎から始まる藤堂藩は、江戸時代において一度も改易されることなく、伊賀・伊勢の地を守り、文化を受け継いできました。さて、高虎とは？



津・上野の町づくり

◎戦国の世にありながらオープンな町づくり

町のなかに街道を引き込んでメインストリートにする。「津」は、すべての人・物が集中する東海地域を代表する城下町へと成長。江戸時代は、名古屋に次ぐ人口。明治22年、東海地区初の市制。



高虎から2代、3代藩主へと受け継がれ約90年かかって一段落

◎百姓・町人が安心して暮らせる領地づくり

災害対策・新田開発・灌漑工事
重臣 西嶋八兵衛之友(土木技術家)は、難工事の末、慶安元年(1648)に雲出用水(灌漑用水)を完成(600町分の水田を潤したといわれる)。



西嶋八兵衛之友

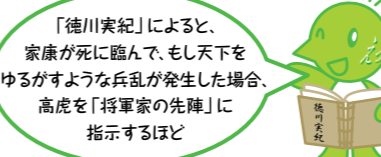


「江戸時代の設計者」異能の武将・藤堂高虎 著：藤田 達生

幕府からの厚い信頼

◎重臣会議への出席も許された唯一の外様大名

大名は徳川将軍家との関係によって「親藩」「譜代」「外様」に分類され、それぞれ待遇や役割の違いが大きかったが、高虎は、幕府にとって重要な政務を決定する会議にも出席する。



「徳川実紀」によると、家康が死に臨んで、もし天下をゆるがすような兵乱が発生した場合、高虎を「将軍家の先陣」に指示するほど

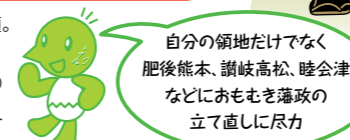
◎関ヶ原の戦いで、東軍につき西軍内応工作



高虎 関ヶ原合戦図屏風(関ヶ原町歴史民俗資料館蔵・レプリカ)

◎戦で荒れ果てた地域社会を復興すべく、「藩」の成立に力を注ぐ

「藩」=分権国家を構想した治者として他の大名も追随。(江戸幕府の法令のなかに「藩」という言葉も規定もない)「藩」は、徳川幕府より預けられた領国において、独自の立法・行政・司法の権限と財政基盤をもち、家臣団が役人として地域支配に責任を果たした。



自分の領地だけでなく肥後熊本、讃岐高松、陸奥津などにおもむき藩政の立て直しに尽力

「豊臣秀長」重臣時代に実力を培う

～高虎が生涯にわたって崇敬～

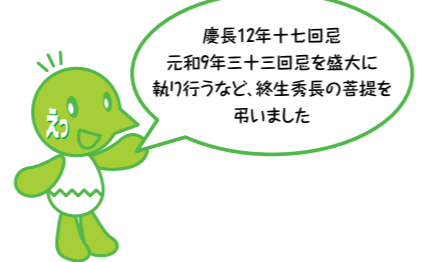
◎高虎の政治思想

「渡り奉公人」として何度も主君を変えてきましたが、牢人時代、秀長に見いだされ、秀長の重臣として豊臣政権を支えることになる。「豊臣秀長」が52歳で病没し、主君のなしえなかった「安定した武家政権の確立」を願い、やがて家康の参謀役となることで幕藩体制国家を成立させた。

◎高虎の人脈

当時の「秀長」の周りには、当代きっての文化人が結集し、家臣団の才能を鍛えた。その人脈を高虎が引き継ぎ、やがて寛永文化が開花することとなる。

近衛信尋(関白)、千利休(茶人)、古田織部正重然(茶人大名)、小堀遠江守政一(茶人大名・娘婿)、中井家(法隆寺大工)、甲良家(京都建仁寺大工)



慶長12年十七回忌
元和9年三十三回忌を盛大に執り行うなど、終生秀長の菩提を弔いました

◎理想実現のため

「世渡り上手」と言われていますが、それは、平和な世の中を求め自らの判断で牢人*から這い上がってきた真正銘の戦国武将の証

【主な主君】
浅井長政、阿閉貞征、磯野員昌、織田信澄、豊臣(羽柴)秀長、豊臣秀吉、徳川家康

*牢人:主家を去って俸禄を失った武士のこと

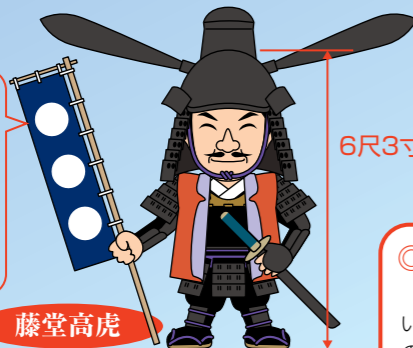
◎名築城家

3大築城家
藤堂高虎・加藤清正・黒田如水

高い技術力を持つ職人集団

甲良大工衆
優れた築城技術
穴大衆
石垣の普請

旗印：白餅(城持ちにかけて)
流浪していた時に店で餅を無銭飲食してしまい、余りの食べっぷりに店主よりお代免除に路銀まで頂戴しました。その時の恩を忘れないために旗印に。



藤堂高虎

6尺3寸(約190cm)の大柄

1556年(弘治2)	近江国(滋賀県)に生まれる
1570年(元龜元)	浅井長政に仕える。姉川の合戦で初陣。二年後に浅井家を出て、阿閉貞征など次々に主君を変える
1576年(天正4)	羽柴秀長に仕え、三百石に
1581年(同9)	結婚(一色家・久芳夫人)
1591年(同19)	秀長死去、秀長の養子秀保に仕える
1595年(文禄4)	秀保死去、出家しようが高野山に登るが、豊臣秀吉の説得で下山。伊予板島(後の宇和島)七万石に
1600年(慶長5)	関ヶ原の戦いで東軍に属し勝利。二十万石に
1604年(同9)	伊予今治(愛媛県今治市)に築城。後に江戸城設計に携わる
1608年(同13)	伊予今治から伊勢・伊賀へ国替え。計二十万石余に
1615年(元和元)	大坂夏の陣に従軍。二十七万石余に。二年後、三十二万石余
1630年(寛永7)	眼の病気で失明し、十月五日に死去。享年七十五歳



創造的破壊を演出できる尖った人財の創出 技術と経営の本質を理解



三重大学人文学部法律経済学科・教授
渡邊 明 Watanabe, Akira
[URL] <http://www.rssbrain.jp/mot.html>

株式会社カムブレイン・社長
太田 実 Oota, Minoru
[URL] <http://www.cambrain.co.jp/>

国立台湾芸術大学・教授
内田 邦博 Uchida, Kunihiro



◎新しい人財

企業が競争優位を獲得・保持し続けるためには、21世紀型の産業構造を理解するとともに「技術を経営の立場からマネジメントする(MOT=Management of Technology)」能力を備えた人財が必要です。MOTは、1+1=2+αのようなシナジー効果の追求だけでなく、要素同士の結合から全く異なるパラダイムを生み出して地域企業の発展をマネジメントすることが重要だと考えています。

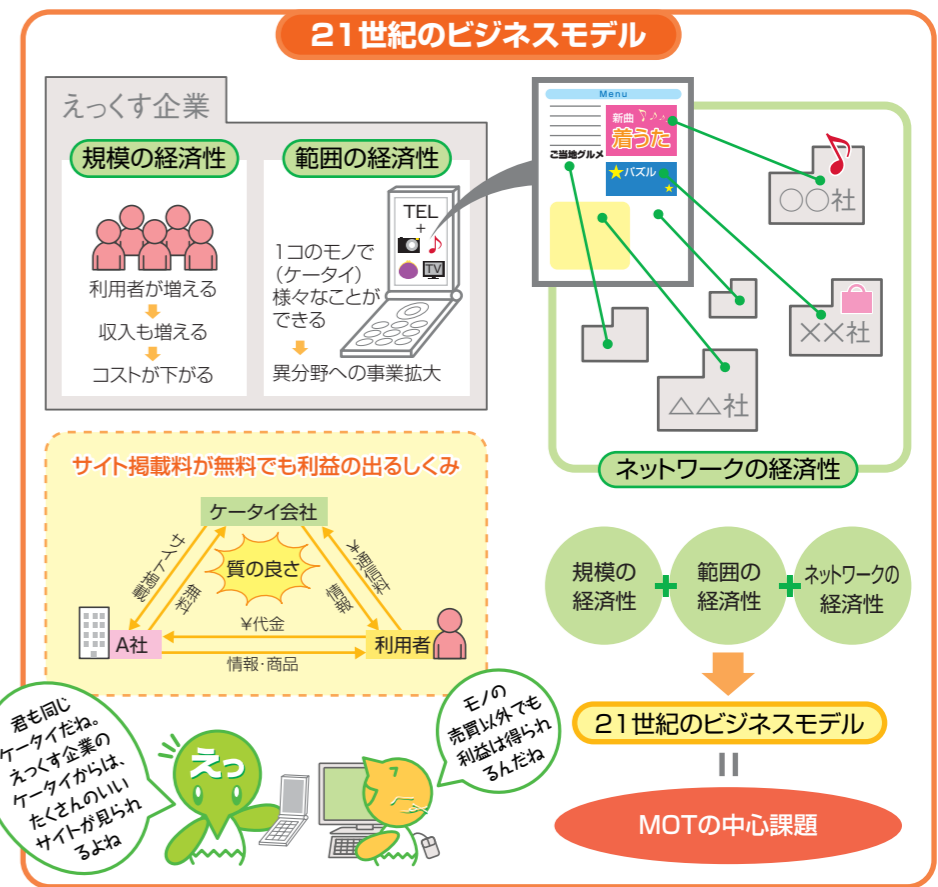
◎「創発」を引き出す

三重大学では、2005年度から教育・研究を中心に「生涯顧客」を創造していくというコンセプトのもとにデザインした「MOT」講座を始めています。企業の太田社長は、「どんな複雑なものでも、どんな部材でも削れる」と豪語。また、愛知万博トヨタ館のロボット開発に携わったレクサスデザイナーの内田氏は、「インダストリアル・デザインとエンジニアリングのコンフリクト(衝突)の調整から新たなものが生まれる」と提唱しています。

この講義は、聴く者をこれまでに考えもつかなかった新しい発想で新結合された世界へと導き、イノベーション能力を目覚めさせ、新しい管理や技術の共同研究も行います。

◎インターセクター・ディスカッション

今、授業では異なる価値観の受講生が様々な観点から「21世紀のビジネスモデル」に欠かせない3つの経済性(右図)を軸に議論を行っています。そこでは、絶えず知識の破壊と融合が繰り返され、新たな商品やビジネスモデルのアイデアが提案されています。また、今までの知的資源の活用や、受講者と講師の方々との情報共有を常に行うためにインターネット(mixiで講義に必要な情報を流したり、You TubeやPod Castingを利用して過去の動画や新しい経済情報を常に配信)も積極的に活用しています。MOT講座はこうした多くの情報の中から、固定概念を取り外し、新たな情報を組み合わせることができる人財育成を目指しています。将来の大きな変化に対応できる人財ネットワークを大学が中心になって作っていきます。



◎今後のMOT講座

講師は、渡邊明教授のほか外部よりお招きしております。

講座名	講師	内容
生産管理論特論Ⅰ 金曜日 19:00~20:30	岩坂 和幸 岐阜経済大学・准教授	多品種・多仕様・大量生産だけでなく、新しい時代に合わせた生産のしくみについて考えていきます。
生産管理論特論Ⅱ 月曜日 19:00~20:30	太田 実 株式会社カムブレイン・社長	『儲けを生み出すビジネスのしくみ』を事例研究から具体的にどのようにしているかを分析していきます。
原価計算論特論 土曜日 10:30~16:10	海住 信行 宇治山田商業高等学校・教諭 吉田 久幸 津商業高等学校・教諭	『原価計算とは何か』という初歩的なことやコスト削減の大切さを学び、実際に原価計算ができることを目的としています。

*各講座とも若干名なら受講できます。ご希望の方はgoodaki@human.mie-u.ac.jpにご連絡ください。



三重県の寄附講座として地域を応援する

みんなで考える医療づくりをめざして…



三重大学大学院医学系研究科
地域医療学講座 寄附講座・教授
武田 裕子 Takeda, Yuko
【URL】 <http://www.medic.mie-u.ac.jp/community-oriented/>

内科医師との症例検討会

◎地域医療学講座の活動

地域医療学講座には、医師である教員3名、学術研究員1名、事務スタッフ1名が配置され、診療、教育、研究の3つの活動を行っています。

診療は、教員の専門領域において東紀州の病院診療を部分的に支援しています。教育活動としては、学生や研修医に地域医療の魅力を伝えるべく授業を担当し、地域医療実習や研修プログラムづくりとその紹介を行っています。学生・研修医は、実際に地域に出かけ地元の方と交流してはじめて地域医療の楽しさややりがいを実感します。いわば地域が医療の担い手を育てるのです。これを、地域基盤型医学教育といいます。さらに、地域医療を担っている医師・医療従事者への教育支援や地域住民への健康教育・啓発活動も行っています。紀南病院には定期的に出向いて、病院内外で行われている活動を支援しています(左ページ写真、図1・2)。

研究テーマは、地域や診療科によって医師不足が生じる背景因子の解明、遠隔地で勤務する医師の診療・教育支援の方法、医師の勤務環境などです。三重県の女性医師復職支援事業にも協力しています。

◎これからの医療

最近、医療崩壊という言葉をよく聞きます。その陰には、医療「過信」と医療「不信」があるようです。いつでも最善の治療が受けられ、病気は治って当たり前、思うような結果が得られなかったら医療ミスと決めつけては、医療従事者と患者のコミュニケーションは断絶するばかりです。

今や、日本全国医師不足です。病院の統廃合も進んでいます。またどのような医療

図1 紀南の医療をいっしょに考える会



紀南地域では、医師不足や医療体制などの問題をみんなで考えようと、集落ごとにタウンミーティングを行っています。紀南病院・医師会・消防・行政の関係者がそろって地域の公民館に向き、医療問題について情報提供するとともに、集まった住民と膝を突き合わせて意見交換を行っています。

図2 住民ボランティアの協力を得て行うコミュニケーション教育

地域住民が医療従事者を育てるという認識をもって、地域医療学講座では住民ボランティアを募り模擬患者として養成しています。ロールプレイを用いた研修で、医療従事者は患者役の住民との会話を通して、コミュニケーション能力を高めます。



***** お知らせ *****

休職中の医師の再就職支援

医師免許をお持ちで臨床の場から離れている方はいらっしゃいませんか？
もう一度、自分のできる範囲で資格を活かしたいとお考えの方がおられましたら、ぜひご連絡ください。

地域医療学講座では無理のない再チャレンジを応援しています。

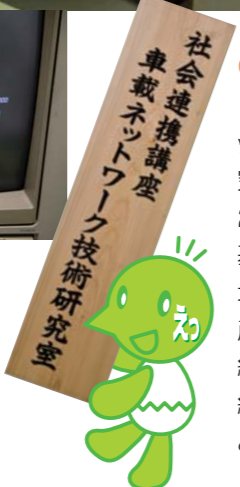
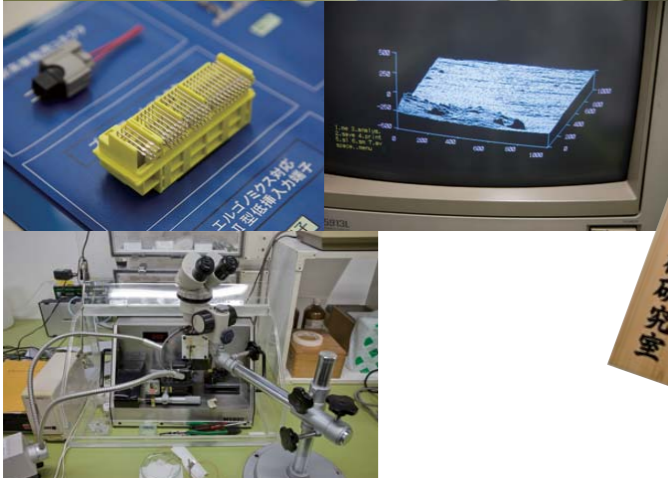
●お問い合わせは●
電話番号 059-231-5620

お待ちしています



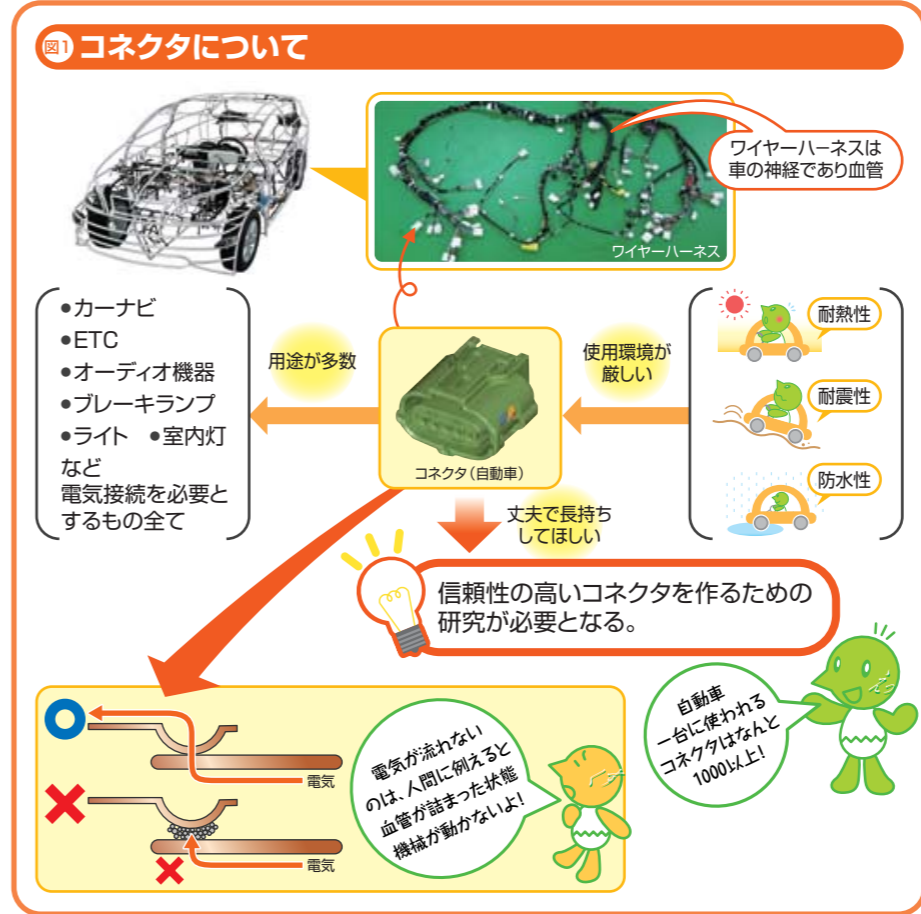


コネクタ研究に全力を注ぐ 電気の流れをスムーズに！



◎大学と企業が手を取って

工学研究科に設置されている社会連携講座「車載ネットワーク技術研究室」は オートネットワーク技術研究所との間で2005年5月に結んだ包括協定をもとに、2006年4月に生まれた研究室です。三重大学はその基本理念の中で「地域社会の発展」を1つの項目にあげ、地域の自治体と協力協定を結んでいます。三重大学と産業界では、オートネットワーク技術研究所との間で結ばれたのが最初で、その後たくさんの企業との間で結ばれ、社会連携講座の他にもプロジェクト研究室などが三重大学に設置されています。



◎信頼性の高いコネクタを作る

社会連携講座の研究テーマは「コネクタ」に関する研究です。(図1)コネクタは電気接続になくはない部品ですが、その研究は一見地味で、電気接続が上手いって当たり前と思われがちなため、大学では行われなくなりつつあります。しかしコネクタは電気電子部品の中で最も信頼性が低い部品と見なされていて、実際に故障の原因になっています。特に、車のように常に振動が加わる過酷な環境下に

おいては、コネクタ接点の金属同士が擦れあって、微摺動摩耗と呼ばれる摩耗が生じています。これが接点不良の原因の一つになり、微摺動摩耗が電気接点に及ぼす影響についての研究が大きなテーマとなっています。(図2)



◎必要は飽くなき研究の源

コネクタに関連する研究は、関係する産業分野から、その重要性和必要性のために、需要があります。このような研究テーマは、産学連携の仕組みを利用して進めることが今後の一つのやり方だと考えています。どんな場合にも電気の安定した流れを確保するために必要なコネクタの研究は、今後も必要不可欠でしょう。

三重大学医学部附属病院 ～この春から看護師～

Part III

ここにあなたの輝く場所がある

今年度、全国で新たに46,342人が看護師として誕生。4月から三重大学附属病院にも33人の新人看護師が就職してきました。

就職の決め手は、教育制度が充実、スペシャリストの育成に積極的、高度先進医療の現場など様々ですが、看護に対する思いや熱意は、みな同じ。今はまだ、新人として先輩看護師の指導や助言を受けながら勉強中です。

ステージUPのため
教育・研修システムが
充実しています。



自分を 生かせる職

～附属病院の看護師
として誇りをもって～



人間関係抜群の職場

患者様のほんの少しの快復に喜び、それを病棟看護師の皆で共有できるんです。患者様は、三重県中から「ここなら何とかしてもらえ」とやって来ます。求められることも大きいですが、ここで頑張れば、どこでも通用する看護師になると信じています。

脳神経外科病棟
看護師
小林 由起子
Kobayashi, Yukiko
(三重県立看護大学 卒)

高度先進医療 を学ぶ

～経験を積み、指導者
としての立場に～



整形外科病棟
看護師
森川 寛之
Morikawa, Hiroyuki
(三重大学 卒)

しっかりとした研修内容と
プリセプター※に支えられ

体育の教師を目指していましたが、高校3年の時に足の靭帯を切り手術・入院したのをきっかけに看護師の道に進みました。職場は、ハイスピードで、知識がついてこず不安になります。現在のところ、将来の姿は、模索中ですが、早く、病棟で使える看護師になりたいです。

※プリセプター：新人の相談役としてマンツーマンで支援にあたる先輩看護師

考えて動ける 看護師

～苦しんでいる人の手助けがしたい～



中央手術部
看護師
森田 智子
Morita, Tomoko
(日本赤十字
豊田看護大学 卒)

何でも話せる仲間がいる

手術部は、患者様とお話することが少ないという特殊な部署だともいます。毎日、手順や術式の違う手術が行われています。初めてのことばかりで、緊張したり、戸惑ったりと、何も出来ない自分に自己嫌悪。そんな時、同じ悩みを持つ同期の人たちの励ましが、私を元気にしてくれます。



みんな
輝いてる

看護師として ステップUP

～いつの日か、
がん看護専門看護師に～



内科病棟
看護師
本多 正繁
Honda, Masashige
(三重看護専門学校 卒)

思った以上の
教育制度に満足

医療ソーシャルワーカーをしている時に看護師が患者様にとって大きな役割を果たしていることに気づき、看護師となることを決断しました。現場は、学校とは違い、一つひとつに責任が伴い、悩んでばかりです。でも、焦らず、無理せず、次のステップを目指して頑張ります。

看護する楽しさ

～仕事としての
看護に充実感を～

希望の職場で
チームの一員として

赤ちゃんが大好きです。赤ちゃんは、苦しみや痛みを言葉に出せません。ほんの些細なことが状態を大きく変えます。NICU※には、リスクのある赤ちゃんが搬送されてきます。責任は重大ですが、チームの一員として働く喜びを日々感じています。

※NICU：乳児集中治療室



周産母子センター
(新生児・分娩棟)
看護師
濱口 ゆりか
Hamaguchi, Yurika
(三重大学 卒)

看護師・助産師募集
医学部附属病院では看護師・助産師の募集を随時行っています。
●お問い合わせは●
三重大学医学部附属病院看護部
☎059-231-5183 又は
☎059-231-5184

あなたの
笑顔をお待ち
しています。

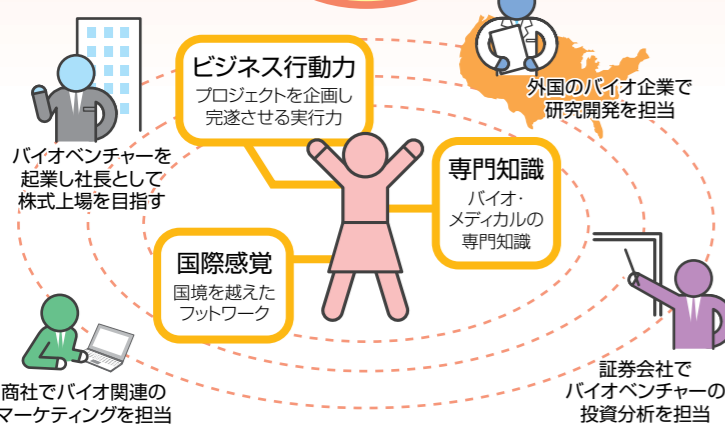


2008年度採用の新任看護師

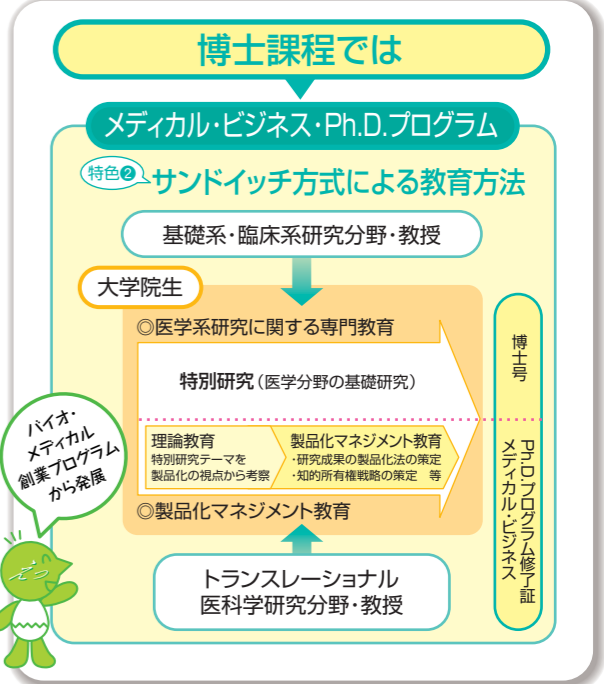
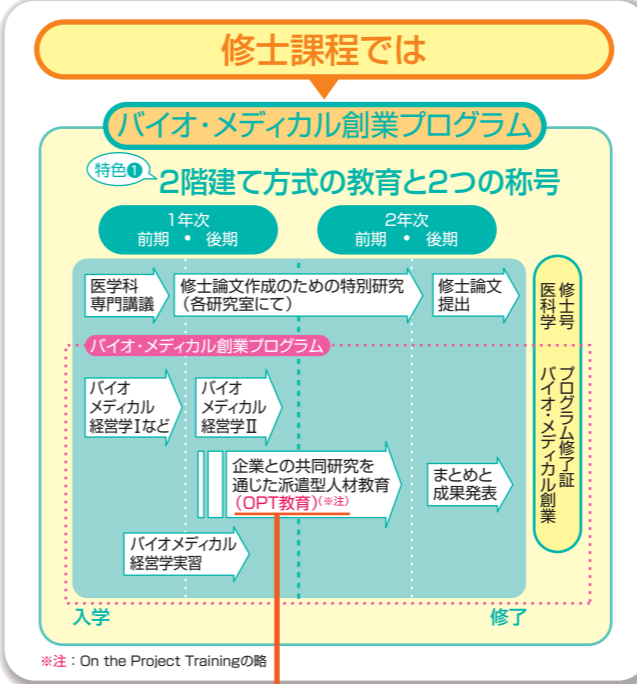
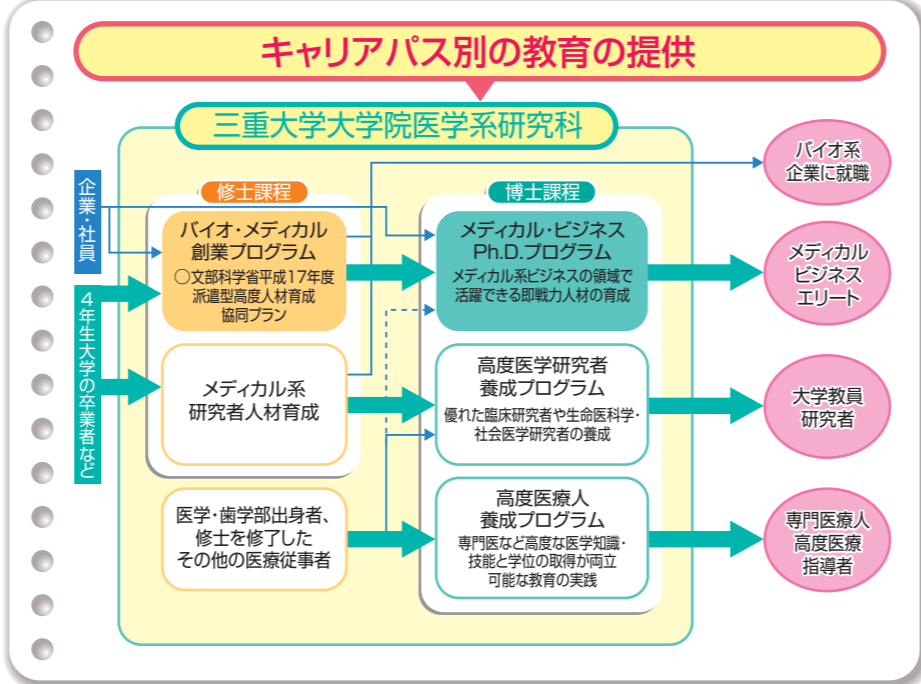
「製品化マネジメント」ができる研究開発系人材の育成

三重大学大学院医学系研究科では、バイオ産業での新規事業を積極果敢に遂行できる人材を育成するための教育プログラムとして「バイオ・メディカル創業プログラム」を実施しています。

この教育プログラムは、三重大学と企業が連携して行う共同研究プロジェクトに学生を担当者として参画させる「On the Project Training 型教育」を特色としており、科学技術知識マネジメント能力とプロジェクト・マネジメント能力に加え、国際感覚を有する製品化マネジメントができる即戦力タイプの人材育成を目指します。



三重大学は起業家を育成します。



● On the Project Training 型教育プログラムによる実践教育

三重地域圏の企業と三重大学が連携し、大学院生を企業のプロジェクト担当者として参画させ、企画立案から完成までを体験させる実践的な教育プログラムです。

- On the Project Training for「研究者」の育成
 - 基礎研究を通じたバイオ・メディカル分野の専門教育を提供します。
- On the Project Training for「ビジネス・エリート」の育成
 - バイオ・メディカル分野の最前線で活躍する学外の専門家による実践的な講義とバイオ系企業での現場実習を提供します。
- On the Project Training for「国際人」の育成
 - 海外の連携機関での現地実習により実践的な国際感覚を養成します。

専門知識を実践の場で応用

現場実習、実務研修でプロジェクト、マネジメント能力を磨く

海外研修で国際感覚を養う

バイオ・メディカル創業プログラムの活動を通して、産業界で活躍する人材と新しい技術を育て、三重県の産業界の活性化に寄与できればと思っています。研究開発で三重大学と連携したいと考えている企業の皆様、ビジネス界で活躍したいと考えている学生の皆様の参加をお待ちしています。一緒に三重県発のイノベーションを起こしましょう。

西村 訓弘
三重大学大学院医学系研究科・教授

[URL] <http://www.medic.mie-u.ac.jp/med-link/MVProgram/program.html>

写真にみる三重大学

昭和初期の江戸橋



昭和初期の江戸橋
今も昔も学生の通る橋。

三重県立大学



医学部（1953年当時）
大谷町校舎。後に鳥居町に移転。



水産学部（1953年当時）
水産県の特徴を活かした学部として設立。



レ・モンドホール（現在）
県立大学附属図書館として建築。
現在は国の登録有形文化財。

1877~1949年 三重県師範学校



（1904年当時）教育学部の前身であり、1969年に上浜キャンパスに移転。



（2008年現在）津城の堀は変わらず、今は市役所があります。

現在の三重大学は5学部ある総合大学だよ。100年以上も昔から各学部の前身となる学校が津市内各地や亀山、松阪にあったんだ。今の津市の地図を使って、ボクの選んだ写真と一緒に見ていこう！



三重高等農林学校



本館（1924年当時）農学部の前身。

1921~1949年

門柱は今もキャンパス内に残っています。



三翠会館（1936年当時）



三翠会館（現在）

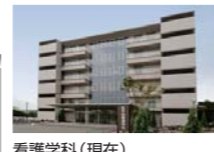
開校10周年記念事業として建築。現在は国の登録有形文化財。



工学部（1972年当時）
1969年に機械工学科、電気工学科の2学科、翌年には工業化学科を設置。



人文学部（1983年当時）
文化学科・社会科学科を設立。



看護学科（現在）
前身は三重県立医科大学附属医学生女学部。

1949年~

三重大学

こねよれも古い歴史については、P.1~2を見てね



1965年

上浜キャンパス内には農学部と農場だけでした。



2008年

1971年に農場は高野尾へ移動しました。



各学部同窓会

人文学部 三重大学人文学部同窓会

○事務局連絡先
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
【電話】 TEL.059-231-9161
【メールアドレス】 fukai@human.mie-u.ac.jp
【担当者】 杉本 吉弘（常任理事）

○会長/作野 史朗（学芸学部中退昭和34年卒【7期生】）
○会長/佐藤 史紀（文化学科平成2年卒【4期生】）

教育学部 三重大学教育学部同窓会

○事務局連絡先
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
【電話】 TEL&FAX.059-231-9242
【メールアドレス】 sanikai@doc.medic.mie-u.ac.jp
【担当者】 杉本 吉弘（常任理事）

○会長/作野 史朗（学芸学部中退昭和34年卒【7期生】）

医学部 三重大学医学部医学科同窓会三医会

○事務局連絡先
〒514-8507 津市江戸橋2-174
【電話】 TEL.059-231-5469
【メールアドレス】 sanikai@doc.medic.mie-u.ac.jp
【担当者】 北川 昭義

○会長/川原田力也（医学部昭和45年卒）
○HPアドレス（現在作成中、未完成）
http://sanikai.medic.mie-u.ac.jp/honbu/

工学部 三重大学工学部同窓会

○事務局連絡先
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
【電話】 TEL.059-231-9402
【メールアドレス】 lida@elec.mie-u.ac.jp
【担当者】 飯田 和生（工学研究科・教授）

○会長/上村佐四郎（電気工学科昭和48年卒【1期生】）
○HPアドレス
http://www.dousokai.eng.mie-u.ac.jp/

生物資源学部 三翠同窓会

○事務局連絡先
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
三重大学生物資源学部に
【電話】 TEL&FAX.059-231-9677
【メールアドレス】 dosokai@bio.mie-u.ac.jp
【担当者】 中村 公一

○会長/服部 忠行（農学部農学科昭和23年卒【第24回】）
○HPアドレス
http://www.bio.mie-u.ac.jp/dosokai/

医学部看護学科 三医同窓会

○事務局連絡先
〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学医学部看護学科内
【医学部代表電話】 TEL.059-232-1111（代）
【担当者】 今井 奈妙（基礎看護学講座・准教授）
平松万由子（地域看護学講座・助教）

○会長/中川 公子（医学部附属看護学校昭和50年卒【国立1回生】）

全学同窓会が発足 三重大学全学同窓会 設立総会・記念講演会・祝賀会

平成20年 10月4日 土曜日

- 場所/三重大学講堂 大ホール（記念講演・総会） 小ホール（祝賀会）
- プログラム
15:00~15:50 設立総会
16:00~16:40 記念講演会
16:50~18:30 記念祝賀会
- 会費/5,000円
- 連絡先
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
三重大学全学同窓会設立準備委員会事務局（担当:中村）
TEL.059-232-1211（代）（内線2162）

今、同窓会では昔の三重大学の写真を集めているよ。昔の写真を持っている方から連絡があるとうれしいな♪

平成20年
6月8日

NHK大学 ロボコン2008 技術賞受賞!!

21チームが参加する大会において、ロボコンクラブ「M³RC (エムキューブアールシー)」が3位に相当する技術賞を受賞しました。



平成20年
6月10日

伊賀拠点 『サテライト キャンパス』起工式



伊賀市ゆめが丘にて、研究拠点建設工事の安全を祈願しました。来年3月完成予定で、伊賀市と連携し、市民の文化的啓発と地域企業との共同研究を推進し、地域活性化に貢献していきます。

平成20年
6月15日

ヘリコプター で参加!

附属病院の災害派遣医療チーム(DMAT)が、東紀州(紀南)広域防災拠点施設活動訓練に参加しました。災害発生時の負傷者・急病者の緊急搬送等の工程について確認をしました。



平成20年
6月23日

ハリウッドフィルム エディターが語る 「ハリウッド映画 製作最新事情」

ハリウッドでフィルムエディターとして活躍中の横山智佐子さんを迎え、講演が行われました。横山さんが設立した映画学校「ISMP」の生徒らが制作した映画も上映され、約80名の学生たちは熱心に聞き入っていました。



平成20年
6月23日

附属特別支援学校 「ストリートオルガン」 演奏会開催

ボランティアサポーターの伊藤敏雄氏や西野秀雄氏の呼びかけに、はじめは戻込みしていた子どもたちも、友だちの楽しそうな様子をみて次々と手をあげ、クラシックの名曲から「となりのトトロ」まで幅広い楽曲をうれしそうな顔で演奏して楽しんでいました。



第97回 日本病理学会総会 学生ポスター部門 優秀賞受賞

医学部医学科4年の永春圭規さんが「テネイン-Cは乳癌細胞の上皮間葉移行を誘導する」を発表し、学生ポスター部門60題の中から優秀賞を受賞しました。



平成20年
7月1日

「野村證券・ 百五銀行・創業革新 プロジェクト研究室」設置

プロジェクト研究室では、ベンチャー企業を支援し、「産業界で活躍できる研究系人材」の養成を目指します。



野村證券 木村執行役 豊田学長 百五銀行 平石常務取締役

平成20年
7月3日

知事トーク inキャンパス

野呂三重県知事による講演会が開催されました。三重県の主要な取組や環境問題などについて、学生たちと意見交換も行い、集まった約210名の学生たちは熱心に耳を傾けていました。



平成20年
7月1日

平成20年
7月5日

第2回三重大学 国際交流週間2008

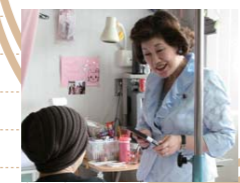
スピーチコンテスト、写真コンテスト、国際交流パーティ、スポーツ大会などを通して、留学生や日本人学生は国際交流を深めるとともに、楽しいひとときを過ごしました。



平成20年
7月3日

池坊文部科学 副大臣(当時)が 三重大学を訪問!

豊田学長との意見交換や附属病院の視察をされ、小児科病棟では病氣と闘っている子どもたちを激励されるなど充実した時間となりました。



平成20年
7月18日

講演会 「志摩の海女と濟州島の 海女—海女を世界遺産に!—」

(主催:人文学部伊勢湾熊野地域研究センター、創造開発研究センター、附属図書館研究開発室、海女研究会)



海の博物館館長石原義剛氏の講演会が開催され、国境を越えた二つの地域で活動した海女の交流の歴史を振り返り、両地の海女の共通点や相異点を熱く語られました。

平成20年
7月20日

第8回 国際環境シンポ ジウム「四日市学」

「21世紀型環境教育や地理教育のあり方を探る」をテーマとしたシンポジウムが開催され、李明均韓国啓明大学校助教授、犬井正 日本地理教育学会会長による講演やパネル討論が行われました。



平成20年
6月28日

平成20年
7月13日

第57回東海地区 国立大学体育大会

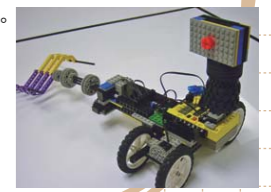
- ★男子少林寺拳法部
- ★男子卓球部
- ★女子卓球部
- ★女子弓道部



おめでとう

第9回 「レゴロボット 競技会2008」

工学部理工学学科では、毎年ものづくりの魅力を知ってもらうための競技会が開催されています。今年も夏休み中の小学生たちが見学に訪れていました。



16チーム中、優勝した「SS5」チームの「仏条(フッチャー)」

平成20年
7月26日

親子で ソーラーカー作り! 『新エネルギー学習会』 (主催:津市環境政策課)

工学部での新エネルギーの講義や、風洞実験施設の見学をするなど、参加した津市内の小学生の親子20組は楽しみながら、環境について学ぶことができました。



タッド ボール 「Tadpole System」 (腰椎を固定するための金属インプラント)

医学部整形外科と工学研究科機械工学専攻の稲葉忠司准教授が共同開発し、すでに日本で発売されている「Tadpole System」が、2008年4月からフランスでも発売されました。



えっくすくん
information
気になる NEWS

Information
気になるNEWS

Information
気になるNEWS



赤目四十八滝

マイナスイオンいっぱい！
今回は、今年6月に平成の名水百選に認定された赤目四十八滝に行ってきました。

◎赤目って？

赤目四十八滝の「赤目」とは、役行者が修行中に赤い目の牛に乗った不動明王に出会ったという伝説から名付けられました。赤目四十八滝は「日本の滝百選」、「森林浴の森百選」、「遊歩百選」に認定され、今年の6月には新たに、「平成の名水百選」に認定されました。

片道約4kmの散策コースでは、自然豊かな様々な滝を見学することができます。



▲秋の荷担滝



▲平成の名水百選に選ばれました。



日本サンショウウオセンターキャラクター
あめめしじゅうはちたき
加藤レポーター さんちゃん タッキー
遊びに来てね!

◎涼を求めて

日本サンショウウオセンターを抜けると、遊歩道が整備された涼しい森の中に入ります。

奥へ進むと、大小様々な滝が現れ、中でも、不動橋からの眺めが壮大な不動滝、布をかけたような姿で優雅な布曳滝、二股に流れる見事な景観の荷担滝、千手滝、琵琶滝を合わせた赤目五瀑は見ごたえがありました。滝には、上から見下ろせるものもあり、様々な角度から滝を眺めることができ、贅沢な体験ができました。

自然の中を歩き、肌に触れる空気や季節を感じながら、みなさんお気に入りの滝を探してみてくださいはいかがでしょうか。



▼スタンプラリーをしました。どこまで行けるかな？



赤目四十八滝渓谷保勝会 赤目観光協会

- 所在地 〒518-0469 三重県名張市赤目町長坂861番地の1
- お問い合わせ先 TEL.0595-63-3004
- [URL] <http://www.akame48taki.jp>

加藤 良明 (三重大学生物資源学部 共生環境学科4年)

写真部

代表 北出 早人
(工学部理工学科 2年)
【HP】<http://photoclub.hannari.com/>



私たち写真部では「自由」をモットーに、個性豊かな部員達が週1回のミーティングと年5、6回の写真展の他、写真集の作製、コンテスト出品、撮影旅行などのびのびとマイペースに活動しています。

初心者でもカメラが無くても大丈夫！なかには入部してから写真を撮り始めた人もたくさんいます。みんなで写真を撮ることを目標にしています。

写真は気軽に撮ることができてすごく楽しいので、興味のある方はいつでも写真部へ遊びに来てください。



活動は! 毎週月曜 18:00~
課外活動共用施設2階



少林寺拳法は、筋力ではなく人体の理を利用した「力を使わずに相手を倒す」日本で生まれた武道であり護身術です。

6月29日に開催された第57回東海地区国立大学体育大会では総合優勝をはじめ、最優秀賞など多数の入賞を果たしました。

また、香川県少林寺拳法総本山で、日本はもとより世界各国の拳士たちと交流し、切磋琢磨できる素晴らしい合宿など、楽しい行事もたくさんあります。



部員は大学に入ってから始めた人ばかりで、運動神経、体力は関係なく、練習すれば誰でも必ず強くなれます。興味のある方はいつでも連絡してください。一緒に汗を流しましょう!



活動は! 毎週、月火木金 17:00~19:00
第二体育練習場 少林寺拳法道場

代表 弓谷 浩輔
(人文学部文化学科 3年)
【HP】<http://www.geocities.jp/miedaisyourinji/>

少林寺拳法部



紀行「天・津・爛・漫」

『天津師範大学での協同教育進む』

今年度、私を含め2名の長期、4名の短期滞在により、日本語、基礎科目の教育を担当してきました。これは、2006年9月、天津師範大学に「合作弁学条例」に則った新しい日本語コースが実験的に発足したことにもなっています。実験コースは、三重大と天津師範大学の協同教育によるダブルディグリー制度*1の具体化であり、国立大学として、学部レベルの制度として初めてのものです。また、日本語学科のある中国の大学は数多いですが、常時複数の教員、しかも現役教員が講義をするということはほとんどありません。中国でも例を見ない、三重大のこの先導的事業は、今後必ず評価されると思います。

現在、全国各地から入学した21名の学生は、早朝から夜遅くまで意欲的に日本語の学習に取り組み、全てを吸収しようとする瞳の輝きには驚くばかりです。来年4月からは、三重大に1年間滞在し日本語能力に磨きをかけ、専門科目の勉強も行います。学生たちは、三重大生と一緒に学ぶことに期待で胸をふくらませています。大学関係者、県民の皆様のご理解と温かいご支援を賜れば幸いです。

2008.7.8 あきあ記



▲ベアでの会話練習



▲先生と学生たち(キャンパス内にて)



▲屋外授業の途中で(水上公園前)



▲自学中の学生



天津での生活の様子や、歴史など楽しく知ることができました。ありがとうございます。天津爛漫は、しばらくお休みします。

先生からの一言

今回をもって「天津爛漫」の締めくくりとさせていただきます。ご愛読ありがとうございました。今後も日本語教育に携わっていきたく考えています。



伊藤 彰男
在天津師範大学
国際交流センター客員教授
(三重大名誉教授)



*1 ダブルディグリー制度

2006年、三重大と天津師範大学との間で締結され、日本語教育コースを開設しました。両大学の同コースの学生が相互に2年留学し所定の単位を取得すれば、両大学の併せて2つの学位(学士)が授与されるプログラムのこと。

* 表彰

●平成19年11月6日
日本結晶成長学会第24回論文賞

工学研究科・教授
平松 和政



●平成20年3月29日
日本熱帯農業学会学術賞

生物資源学研究科・教授
江原 宏



●平成20年5月29日
セメント協会論文賞

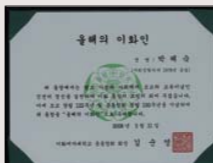
工学研究科・教授
畑中重光
他3名



●平成20年5月31日
「輝かしい今年の梨花人」賞

人文学部・教授
朴 恵淑

韓国梨花女子大学全卒業生の中から世界で活躍する人1名が受賞



* 本の紹介



『農村版コミュニティ・ビジネスのすすめ』
地域再活性化とJAの役割

著しい経済空洞化の進む農山村の再生には、すぐれた「社会的企業家」と「中間支援組織」の登場が不可欠です。日本とヨーロッパの農村調査にもつきながら、地域自立に向けた地域住民の自発的協働を提案しています。

著者/石田 正昭(生物資源学研究科・教授)
定価/1,700円(税別)
発行/家の光協会



『田村泰次郎の戦争文学』
中国山西省での従軍体験から

三重県立図書館所蔵「田村泰次郎文庫」9000点を調査。小説の舞台となった中国山西省、河南省、河北省を実際に訪問して戦争体験者のインタビューをおこないました。フィールドワークに裏打ちされた著者自身の書です。

著者/尾西 康充(人文学部・教授)
定価/2,800円(税別)
発行/笠間書院



『大衆音楽史』
ジャズ、ロックからヒップ・ホップまで

本書は、社会制度、人間の移動と接触、音楽産業、人種や性の差別、抵抗などを検討しながら、ジャズ、ブルース、ロック、パンク、レゲエ、ラップの成立と展開において、どのような力学が働いてきたのか考えるものです。

著者/森 正人(人文学部・准教授)
定価/820円(税別)
発行/中公新書

著書名	著者・発行・金額(税別)
21世紀の考える薬学微生物学 第2版	編集/池澤宏郎 共著/富田昌弘(工学研究科・教授) 廣川書店 5,800円
学術会議叢書14 性差とは何か—ジェンダー研究と生物学の対話—	共著/小川眞里子(人文学部・教授) 財団法人日本学術協力財団 1,800円
古記録による14世紀の天候記録	編纂/水越允治(人文学部・名誉教授) 東京堂出版 30,000円
ジェンダー研究のフロンティア第3巻 少子化とエコノミー パネル調査で描く東アジア	共著/水落正明(人文学部・准教授) 作品社 2,500円
支配の古代史	共著/山中 章(人文学部・教授) 学生社 3,800円
デジタル時代のアナログカ —問われる現代社会の人間力—	共著/荒尾浩子(教育学部・准教授) 学術出版会 2,400円
ジェンダー研究のフロンティア第4巻 テクノ/バイオ/ポリティクス 科学・医療・技術のいま	共著/小川眞里子(人文学部・教授) 作品社 2,500円
自然環境保全のための保土砂防学入門 土砂災害の予知と防災	著者/林 拙郎(生物資源学研究科・教授) 電気書院 3,500円
農、教育、人生 コーおじさんの七転八倒半生紀	著者/大原興太郎(生物資源学研究科・名誉教授) 三重大出版会 1,200円
流体力学 —基礎と応用—	著者/社河内敏彦(工学研究科・教授) 辻本公一(同・准教授) 前田太佳夫(同・教授) 養賢堂 3,000円



●生物資源学研究所公開講座

- 21世紀の食—品質・安全・環境の視点から—
- ◎会場◎生物資源学部校舎1階・大会議室
 - ◎受講料・定員◎500円・50名
 - ◎問い合わせ先◎生物資源学部チーム総務担当/☎059-231-9626
- 1 ユビキタス時代の食・農・環境
 - ◎日時◎10月11日(土)13:00~15:30
 - 科学的生産体系から生まれた本当のほうれん草の味
 - ◎講師◎藤原隆広(ジャパン・アグロノミクス株式会社・代表取締役)
 - 光技術とICT支援による21世紀型農業の展望
 - ◎講師◎亀岡孝治(生物資源学研究所・教授)
 - 2 農薬使用から診る食の安全
 - ◎日時◎10月18日(土)13:00~15:30
 - タイ北部の農業と食の安全
 - ◎講師◎伊藤進一郎(生物資源学研究所・教授)
 - 食の安全確保のための食品検査の実践
 - ◎講師◎小林政人(財団法人食品分析開発センターSUNATEC・分析業務統括)
 - 3 バイオエネルギー—食料とエネルギーの両立を目指して—
 - ◎日時◎10月25日(土)13:00~15:30
 - 食料とバイオエネルギーとの競合の現状
 - ◎講師◎徳田博美(生物資源学研究所・准教授)
 - 食料とは競合しないバイオエネルギー
 - ◎講師◎久松真(生物資源学研究所・教授)

●地域・職域保健医療支援センター開設記念講演会

- 「医療を活かす地域のちから」
- ◎日時◎9月15日(月)14:00~17:00
 - ◎会場◎アスト津大ホール
 - ◎入場料◎無料
- 特別講演「医療と地域と大学の共生を期待する」
- ◎講師◎坂口力衆議院議員(元厚生労働大臣)
- 教育シンポジウム「地域資源を活用して発展する三重の保健医療」
- ◎講師◎竹田 寛(医学系研究科・教授)、富本秀和(医学系研究科・教授)、佐甲 隆(三重県立看護大学 地域保健学 公衆衛生学・教授)、尾崎俊雄(人文学部・准教授)
- ◎問い合わせ先◎三重大学大学院医学系研究科公衆衛生・産業医学分野 ☎059-231-5012 (FAX兼用) E-mail kazuhito@doc.medic.mie-u.ac.jp

●?「発見塾」三重大学シリーズ2008

- ◎問い合わせ先◎津文化協会事務局/☎059-228-8393
- 第3回「早寝・早起き・朝ごはんを脳を育ててアンチエイジング」
 - ◎講師◎成田正明(医学系研究科・教授)
 - ◎日時◎9月27日(土)13:30~15:00
 - ◎会場◎津市図書館視聴覚室
 - 第4回「川魚の話題あれこれ」
 - ◎講師◎原田泰志(生物資源学研究所・教授)
 - ◎日時◎11月22日(土)13:30~15:00
 - ◎会場◎美杉高齢者生活福祉センター(津市美杉町奥津、名松線奥津駅徒歩5分)

- 7 大丈夫か?「社会保障」—年金、医療、児童虐待について考えよう—
 - ◎講師◎尾崎俊雄(法律経済学科・准教授)
 - ◎日時◎10月6日(月)、20日(月)、27日(月)10:30~12:00
- 8 日常生活と法
 - ◎講師◎上井長十(法律経済学科・准教授)、田中亜紀子(同・准教授)、田中誠人(同・准教授)
 - ◎日時◎10月6日(月)、20日(月)、27日(月)16:20~17:50
- 9 熊野古道を歩き交う女性たち—古文書から見る—
 - ◎講師◎塚本明(文化学科・教授)
 - ◎日時◎10月8日(水)、15日(水)、22日(水)8:50~10:20
- 10 税を考える(租税論第一歩)
 - ◎講師◎森俊一(法律経済学科・教授)
 - ◎日時◎10月14日(火)、21日(火)、28日(火)19:00~20:30
- 11 志摩半島・熊野灘の漁村に生きる—その人生と生業—
 - ◎講師◎武笠俊一(文化学科・教授)
 - ◎日時◎10月15日(水)、22日(水)、29日(水)13:00~14:30
- 12 地域活性化における企業の役割と課題—中小企業を中心に—
 - ◎講師◎渡邉明(法律経済学科・教授)、青木雅生(同・准教授)、後藤基(同・准教授)
 - ◎日時◎10月22日(水)、29日(水)、11月5日(水)19:00~20:30
- 13 ドイツのノーベル文学賞受賞作家を読む
 - ◎講師◎大河内朋子(文化学科・教授)
 - ◎日時◎11月8日(土)、22日(土)、12月6日(土)10:30~12:00
- 14 スライドで歩く東アジアの都—中国・朝鮮・ベトナム・モンゴルを訪ねて—
 - ◎講師◎山中章(文化学科・教授)
 - ◎日時◎11月8日(土)、22日(土)、29日(土)14:00~15:30
- 15 現代の金融を考える—サブプライム問題との関連で—
 - ◎講師◎野崎哲哉(法律経済学科・教授)、豊福裕二(同・准教授)
 - ◎日時◎11月13日(木)、20日(木)、27日(木)14:40~16:10
- 16 環太平洋の食料生産、流通と消費
 - ◎講師◎石井真夫(文化学科・教授)、安食和宏(同・教授)、立川陽仁(同・准教授)
 - ◎日時◎11月13日(木)、20日(木)、12月4日(木)19:00~20:30
- 17 岩波文庫「権利のための闘争」を読む
 - ◎講師◎高橋秀治(法律経済学科・教授)
 - ◎日時◎11月17日(月)、12月1日(月)、8日(月)10:30~12:00
- 18 転換の時代としての1990年代 政治と行政は変わったか
 - ◎講師◎樹神成(法律経済学科・教授)
 - ◎日時◎11月19日(水)、26日(水)、12月3日(水)19:00~20:30
- 19 人間の経験(知覚・思考・行動)とはどのようなものか—脳科学・生態心理学・ポスト自我論—
 - ◎講師◎村上直樹(文化学科・教授)
 - ◎日時◎11月22日(土)、29日(土)、6日(土)14:00~15:30

●医学部公開講座

- ◎日時◎10月4日(土)13:00~16:40
 - ◎受講料・定員◎無料・100名
 - ◎会場◎三重大学医学部 先端医学科学教育研究棟2階 基礎第一講義室
 - ◎問い合わせ先◎医学部・医学系研究科チーム総務担当/☎059-231-5428
- 消化器を健やかにして生活習慣病とがんを予防
 - ◎講師◎竹井謙之(医学系研究科 消化器内科学・教授)
 - 認知症ケア 早期の対応
 - ◎講師◎大淵律子(医学部看護学科 地域看護学講座・教授)
 - “万能細胞”と近未来の“再生医療”について考える
 - ◎講師◎山崎英俊(医学系研究科 再生統御医学・教授)

- 秋の「運動会」開催

秋の運動会を開催します。みんな、一生懸命練習しました。ぜひ、子ども達の笑顔とその成果をご覧ください。
- 附属小学校
 - ◎日時◎平成20年9月23日(火)雨天順延 ◎場所◎附属小学校運動場
- 附属特別支援学校
 - ◎日時◎平成20年10月18日(土)雨天順延
 - ◎場所◎附属特別支援学校運動場

* 公開講座・シンポジウムなど

- 三重大学公開講座「健康と環境」
 - ◎会場◎三重大学総合研究棟II階 メディアホール
 - ◎受講料・定員◎無料・先着100名
 - ◎問い合わせ先◎総務部広報チーム/☎059-231-9789
- 2 現代人の健康法~心と体と地球からのデトックス~
 - ◎講師◎今井奈妙(医学部看護学科・准教授)
 - ◎日時◎9月5日(金)18:30~20:00
- 3 描画遊びで心を育む~自分の心を感じてみよう~
 - ◎講師◎岡田珠江(教育学部附属教育実践総合センター・准教授)
 - ◎日時◎9月12日(金)18:30~20:00
- 4 伊勢湾と地球の環境問題~ゆたかな伊勢湾を取り戻すには?~
 - ◎講師◎高山進(生物資源学研究所・教授)
 - ◎日時◎9月19日(金)18:30~20:00
- 5 健康に良い、環境にやさしい、消費の仕方とは?~水産物消費の見直し~
 - ◎講師◎常清秀(生物資源学研究所・准教授)
 - ◎日時◎9月26日(金)18:30~20:00

●人文学部「公開ゼミ2008」

- ◎会場◎三重大学人文学部他
- ◎受講料・定員◎無料・各ゼミ20名
- ◎問い合わせ先◎人文学部チーム総務担当/☎059-231-9195・059-231-9196

- 1 英文法を科学する!?
- 2 聖武天皇行幸従駕における大伴家持の歌
- 3 比較文学への誘い：ラフカディオ・ハーン入門
- 4 戦略的思考方法について(ゲーム理論入門)
- 5 入江泰吉と奈良—奈良市写真美術館を訪ねて—
- 6 伊勢・熊野の中世文書を読む

* 附属病院から

~こんなに元気になりました~



2003年、当院で生体肝移植を受けたケビン君(10歳)が、大腿部の病的骨折後変形部の手術治療を受けにインドネシアより来ました。片言の日本語なら理解できるケビン君は、医療者とのコミュニケーションもほとんど問題なく、手術の痛みにも耐え、家族と過ごしていました。「将来、日本で医療を学びたい!」と語るケビン君をたのもしく感じました。

* 附属学校園から

- 附属幼稚園
- 平成21年度入園ご希望の方へ
 - 入園児募集要項(願書等一式)を配布します。
 - ◎日時◎平成20年9月1日~9月26日(土・日曜・祝日を除く)9:00~15:00
 - ◎募集人数◎3年保育/約20名・2年保育/約50名
 - ◎願書受付◎10月1日~10月7日(土・日曜を除く)
 - 新入園に関する説明会
 - ◎日時◎平成20年9月17日(水)10:00~10:45
 - 幼稚園の園庭を開放
 - ◎日時◎毎週月曜日15:00~17:00 毎週木曜日13:00~17:00
 - ◎ご注意◎受付で利用記入簿に記入してください。トイレは管理棟、昇降口のところをご使用ください。園舎には入れません。ゴミはお持ち帰りください。使った玩具等はかならず片付けてください。保護者同伴でお越しください。
 - 公開研究会のご案内
 - ◎研究主題◎教育課程の実践と定着 ◎開催日◎平成21年1月31日(土)
 - ◎問い合わせ先◎教育学部附属幼稚園/☎059-227-1711
- 附属小学校
- 公開授業研究会のご案内
 - ◎研究主題◎未定 ◎開催日◎平成21年2月7日(土)
 - ◎参加費◎未定 ◎受講対象者◎教職関係者及び学生
 - ◎問い合わせ先◎教育学部附属小学校/☎059-227-1295
- 附属特別支援学校
- 公開研究会のご案内
 - ◎研究主題◎確かな社会参加と自立をめざして—社会性を育てるための学習のあり方—
 - ◎開催日◎平成21年2月14日(土)9:00~16:00
 - ご案内

附属特別支援学校では、「学校見学」「就学相談」「教育相談」(教職員対象コンサルテーション)を行っています。すべて予約制となっていますので、お気軽にお問い合わせください。
 - ボランティア募集

附属特別支援学校の子ども達と楽しい行事に参加しませんか。〈担当:斎藤〉活動内容/作業学習・校外学習・課題のスポーツ・教科の授業・学校祭等
 - 学校祭のご案内

子どもたちが頑張って取り組んで作った作品の展示と、小中高等部による劇の上演やバザーなど色々な催しを企画しています。

 - ◎日時◎平成20年11月8日(土)9:30~15:00
 - ◎問い合わせ先◎教育学部附属特別支援学校/☎059-226-5193



尾鷲・曾根遺跡の海の民



煮炊きに使う深鉢
：海を渡ってきた土器作りの情報



狩りに使う石鏃
：3列目に作りかけの石鏃がある



曾根郷土資料館の展示風景



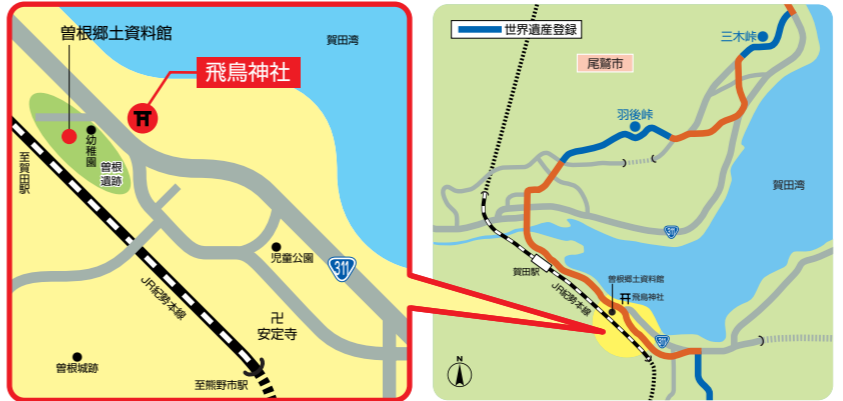
飛鳥神社の社

賀田湾の奥、尾鷲市曾根の集落の一角に遺跡は位置しています。国道311号を挟んで北には、三重県指定天然記念物である飛鳥神社境内のクスやスギの原木が群生する杜があります。曾根遺跡は7000〜8000年前の昔から、縄文時代の終わる2000年前まで、海の民が営々とその生活を刻み続けた場所でした。

旧飛鳥幼稚園の一角を利用して開館されている曾根郷土資料館には、50年前に地元の小学生達が手伝って発掘したたくさんのお宝が展示されています。ひととき目を引くのが、いくつものパネルに丁寧に固定されている石鏃(いしやぶ)です。よく見るとまだ形にならない製作途中のものまであります。海辺の民ですが、漁のない時には裏山に入って狩りをしていたのでしょうか。あるいは漁や狩りには出られないが、石器作りの得意な人物が、作った石器を物々交換していたのでしょうか。そんな空想にふけさせてくれる資料です。

驚くべきことに、縄文石器の研究によれば、西は瀬戸内海の吉備地方から東は関東地方まで、数百kmの範囲に広がる人々が、この地の土器作りに影響を与えたといわれています。何千年もの昔、人々は丸木船を操って、尾鷲に立ち寄り、さまざまな「情報」を交換し合っていたのです。

山 中 章
三重大学文学部文化基礎研究 教授



本誌お問い合わせ先
三重大学総務部広報チーム
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL 059-231-9789
FAX 059-231-9623
ホームページ <http://www.mie-u.ac.jp/>
E-mail koho@ab.mie-u.ac.jp
*ご意見をお寄せください。

三重大 X [えっくす] vol.15
平成20年9月1日発行
●発行/三重大学広報委員会
●編集/三重大学広報室
●印刷/有限会社アートピア artopia@zvtv.ne.jp
◎禁無断転載
本誌掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。

* お願い・ご報告

三重大学振興基金へのご協力をお願いします

三重大学の目的・使命を達成する一助となることを目的に「国立大学法人三重大学振興基金」を設立しました。次の事業を計画しておりますので、皆様の温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

- ◎学生への奨学金及び災害時の学資援助事業
- ◎学生の修学環境整備事業
- ◎学生・教職員の海外留学その他国際交流活動等への支援事業
- ◎地域貢献支援事業
- ◎その他本学の目的達成に必要な事業

●募金の方法●
三重大学振興基金事務局までご連絡いただくか、寄附申込書を本学ホームページよりダウンロードしていただき、ご記入の上ご郵送ください(FAX・E-mailでもOKです)。

ご郵送先
お問い合わせ先

三重大学振興基金事務局
【総務部総務チーム内】
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL: 059-231-9005 FAX: 059-231-9000
E-mail: kikin@ab.mie-u.ac.jp
URL: <http://www.mie-u.ac.jp/fund/>

メールマガジンのご案内

三重大学では、地域の皆様への情報発信の一環として、メールマガジンを配信しています(発行:毎月末)。各種イベント、教育・研究活動上のトピックスなど、「三重大」に関する情報を広く学外へ紹介しています。多くの方々からのご意見・ご提言もいただきながら、地域とともに発展していきたいと考えています。

皆様のご登録を心からお待ちしています。

配信申込み方法

次の事項をご記入の上、下記メールアドレスまでメールをお送りください。

- 1.メールのタイトルは『メールマガジン希望』と記入してください。
- 2.メールの本文に、以下の事項を添えてください。
①「一般」もしくは、「三重大生(保護者)」 ②お住いの都道府県

koho@ab.mie-u.ac.jp

できる限りパソコンのメールアドレスをご登録ください。携帯電話の場合、受信文字数の関係上、内容を一部省略させていただくことになります。

アンケートに答えて…

●えっくすくん特製「えっくすくんわいわいストラップ」をもらおう!!

「三重大X」をよりよくするために、ぜひアンケートにご協力をお願いします。アンケートにお答えいただいた方には、「えっくすくんわいわいストラップ」をお送りします。どしどしお寄せください。(締切:11月末)

*なお、お寄せいただいた個人情報は、景品発送のみに使わせていただきます。

→「えっくすくんわいわいストラップ」ご希望の方は、巻末の綴じ込みはがきにご感想等必要事項をご記入の上で投函ください。



* 公開講座・シンポジウムなど

- 三重大学文化フォーラム
◎詳しくは http://www.lib.mie-u.ac.jp/lab/fr_schedule.html
◎問い合わせ先 三重大学附属図書館研究開発室 / ☎059-231-9072
- 三重大学・亀山市 文化フォーラム2008
●第4回「自治体行政の「改革」について—行政はどう変わるのか、どう変えていくか—」
◎講師 ◎岩崎恭彦(人文学部・准教授)
◎日時 ◎9月29日(月) 19:00~20:30
◎会場 ◎亀山市総合保健福祉センター(あいあい)
●第5回「斎王の制度とその展開」
◎講師 ◎廣岡義隆(人文学部・教授)
◎日時 ◎10月5日(日) 14:00~15:30
◎会場 ◎亀山市関支所
●第6回「新展開する景観法と景観まちづくり—暮らしやすい生活環境づくりに向けて—」
◎講師 ◎浅野聡(工学研究科・准教授)
◎日時 ◎11月26日(水) 19:00~20:30
◎会場 ◎亀山市総合保健福祉センター(あいあい)
- 三重大学・皇學館大学 伊賀市文化フォーラム2008
●第6回「地震災害の現実と地震対策—地域で取り組む実践的活動とは?—」
◎講師 ◎川口淳(工学研究科・准教授)
◎日時 ◎9月28日(日) 13:30~15:10
◎会場 ◎島ヶ原会館ふれあいホール
- 三重大学・志摩市 文化フォーラム2008
◎会場 ◎阿児ライブラリー アートホール
●第4回「温暖化で変化する黒潮流路」
◎講師 ◎関根義彦(生物資源学研究所・教授)
◎日時 ◎9月24日(水) 19:00~21:00
●第5回「認知症って何?どうすればいい?」
◎講師 ◎成田有吾(医学部附属病院・准教授)
◎日時 ◎10月29日(水) 19:00~21:00
●第6回「大地震・大津波に備える—いまできる事を考える—」
◎講師 ◎川口淳(工学研究科・准教授)
◎日時 ◎11月26日(水) 19:00~21:00
- 第26回三重大学工学部建築学科「建築展2008」卒業設計+修士設計展
◎開催期間 ◎9月24日(水)~9月28日(日)9:00~17:00
(24日は13:00から、27日は18:00まで、28日は16:00まで)
◎会場 ◎三重県総合文化センター2階 第1ギャラリー
◎入場料 ◎無料
◎問い合わせ先 ◎三重大学工学部建築学科(松浦) / ☎059-231-9477

催し物

- 第5回 プラスバンド部・チアリーダー部合同ステージ
◎日時 ◎平成20年9月6日(土) 13:00開場 13:30開演
◎会場 ◎三重大学講堂 大ホール ◎入場料 ◎無料
◎問い合わせ先 ◎池本 / ☎090-4274-1563
<http://f46.aaa.livedoor.jp/~miecheer/>
- レクチャーコンサート~オペラにみる愛さまでま~
◎日時 ◎平成20年9月20日(土) 13:30開場 14:00開演
◎会場 ◎三重大学講堂 大ホール ◎入場料 ◎無料
◎問い合わせ先 ◎三重大学附属図書館総務担当 / ☎059-231-9083
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>

三重大学祭

テーマ/ For ...



期間
11月1日(土) ~ 2日(日)
9:00 ~ 19:00



今年も楽しい企画が盛りだくさん♪
気になる今年のアーティストは...!?

いつもは伝えたくても伝えられないこの想い。
あなたが想いを伝えたいのは誰ですか?



詳しくは、
こちらから



プライベート

密告ゲーム



敵チームのゼッケンを盗み見して
密告せよ!!

★参加無料
★豪華賞品あり

●とき●

10月25日(土)

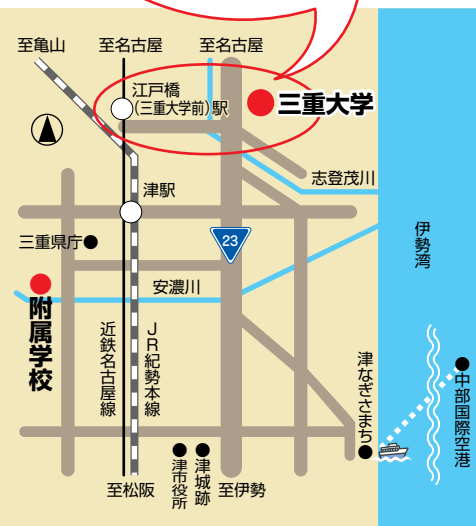
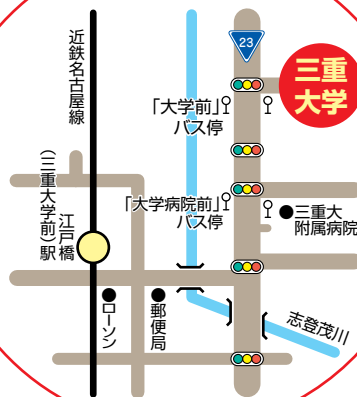
[小雨決行] 予備日10月26日(日)

◎12:30~受付 ◎16:30~閉会式

●ところ●

第一体育館

周辺詳細図



交通のご案内

- 近鉄江戸橋(三重大学前)駅から徒歩約15分
- 津駅からタクシーで約10分
- 津駅前バスのりば「4番」から三交バスで「白塚駅前」(06系統)、「太陽の街」(40系統)、「三重病院」(51系統)、「棕本(むくもと)」(52系統)、「豊里ネオポリス」(52系統)、「サイエンスシティ」(52系統)、「三行(みゆき)」(53系統)行きで、「大学前」下車。
- 中部国際空港(セントレア)から
津エアポートラインで津なぎさまちへ40分
1. 「津なぎさまち」から三交バスで「津駅前」まで約15分
2. 津なぎさまちからタクシーで三重大学まで約15分



〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL 059-232-1211(代)
<http://www.mie-u.ac.jp/>

MIE UNIVERSITY